

『防災講座』 コロナ禍における 地震津波・自然災害の防災とは

令和5年1月29日(日曜日)午後1時～

会場: 木瀬川公民館2階

講師: 蓮池章平氏(防災士)

参加人数: 45名(コミ防災部長・木瀬川自主防災部長参加)。



『近年相次ぐ自然災害から自分自身を守り、家族や地域で防災意識高めよう!』

講師・蓮池氏(防災士)

【令和3年(2021)7月、黄瀬川大橋の豪雨の災害復旧について】

7月梅雨前線に伴う大雨により橋脚の一部が沈下し、7月3日から通行止め。国・県・地元業者で連携し、作業の安全確保をしながら既存の構造物を活用した形で応急組立橋を設置し、現在にいたる。下流側で仮橋・迂回路は令和五年秋完成予定で、**大型・中型車、二輪車の通行可能**。本橋は令和8年度完成予定。

①「正常性バイアス」迫っている危機に過小評価する。危機が迫っていることに対して
「自分だけは大丈夫」「何とかなるだろう」「そんなことは起こるわけ
が講習風景

ない」「今の状況は正常な範囲内の事だ」「周りの人が慌てていない
ので大丈夫かと思った」

※ 非難訓練を繰り返す。 ※ 普段からあらゆる状況を想定する。



講習風景

②「防災意識を高める」自分の命を守る。家族友人身近な人の命を守る。非常用持ち出し袋はコンパクトに。

③「地震災害に備えて」● (令県内の9割の住宅は、すでに耐震化されています。対象は昭和56年5月以前に建てられた木造住宅。● 専門家による耐震診断は無和6年度まで)で受けられます。● 耐震補強等に係る費用の一部に補助金(令和7年度まで)が出ます。

④「地震のあとの停電、その後に備えて」● 感震ブレーカーがあれば自動的に電気を遮断してくれるため、2次災害を未然に防ぐことができる。度重なる地震での被害を少しでも軽減するために、感震ブレーカーの使用がおすすめ。

⑤「緊急時に命を守る」● 静岡県では令和元年6月1日から、スマートフォン向け総合防災アプリ「静岡県防災」の運用を開始しました。各種緊急情報の通知から、ハザードマップの確認、平時の防災学習や避難トレーニングまで、災害時に幅広く役立つ機能を備えています。

災害時の行動を家族で決め、連絡方法を共有しておきましょう。

自分の命は自ら守る

自助 基本は自分自身の身の安全を守る 個人の力では限界ある。

お互いの『互』近くの『近』助ける『助』